

第6学年「国語」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○自分の思いや考え明確にして、根拠をもとに意見文を書くことができた。
○互いの立場や意図を明確にしながら、話し合う力がついた。
- 課題** ▼友達の考えから自分の考えを深めたり広げたりする力が充分ではない。
▼語彙力や、文章構成を考える力に個人差がある。
▼話の内容を捉える力（読解力）が弱く、読書量（読書経験）が少ない。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを深めたり広げたりする力。
- ◇ 事象や情報の関係付けの仕方や図などによる語句と語句の関係の表し方を理解する力。
- ◇ 様々な読み物をじっくりと読み、内容を理解する力、想像し考えを深める力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 話し合う目的を十分に理解した上で活動に取り組むために、めあてと単元の目標を明確にする。

言語活動の工夫

- 「様々な視点から検討すること」「自分の考えを広げること」「互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等を区別すること」ができるように、話し合いや個人内思考等の活動を意図的に設定する。
- 線を引きながら読むこと、メモを取りながら聞くことなどの活動を通して、読んだり聞いたりしたことをより深く理解できるようにする。

I C T活用の工夫

- 読み取った内容や、自分の考えを共有する際にI C Tを活用し様々な考え方を交流できるようにしたり、意見をつけ足したりする。

課題解決力育成の工夫

- 児童間での意見交流、I C T機器活用の機会を適宜設定することで、自力解決のための手立てを身に付けるとともに、児童自身がその能力を自覚できるように声掛けや模範の感想の紹介等を通して価値付ける。

達成目標

- 筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。